

五高新聞

平成25年度 第1号

発行：五島高校新聞部

制覇の理想

一瞬を駆け抜ける！

全国高等学校選抜自転車競技 (北州市・山鹿市) 初出場！

平成25年 3月21日~24日



出口 倫子さん (2年1組)

三競技との出会い

トライアスロン・水泳・自転車・・・この過酷な三つの競技をいきいきと楽しんでいる少女がいる。出口倫子(いでぐちみちこ)二年生だ。先日自転車の全国大会に出場したばかりの彼女に話を聞いた。

泳ぐ・走るという三つの競技を行うトライアスロンでは、三種目があるからこそ楽しめ、水泳は水が心地よく、バタフライと平泳ぎが得意。ブレーキがなく、ペダルに足がついている自転車はジェットコースターのようにスピードを出せて楽しい、と語ってくれた。

そして今回初出場の自転車の全国大会について聞いてみた。なんと今回の大会で初めての落車を経験したという。それはスクラッチの決勝の時。落車した彼女は脳震盪を起し、救急車で運ばれ、病院で意識を取り戻したという。顔から落ちてしまった彼女が意識をとり戻したときに思ったことは「顔が痛いな。」翌日も決勝があったため、朝から急いでCT検査を行い、顔に血が溜まり、点滴を打ち、血が出ながらも、会場に向かった。とても出場でき



笑顔が印象的な出口さん

きょうなコンディションではなかった。「走りたき動かしただ。そして、彼女はその日のタイムトライアル決勝で一本走った。その後、落車した自分の姿をビデオで確認した彼女は、「黒い背広を着た大人が一斉に集まって、白目を剥いた自分がふらふらしてから倒れたの。なんか、わかめみたいだったよ。」と笑顔で語った。彼女の

お兄さんも自転車をしていたが、落車をしてから、練習場には行かなくなった。落車後に練習場に行ったら彼女に他校の先生は「もう来ないと思った」と、とても驚いたという。落車したことをきっかけに何かが変わってしまっただけではないか、と恐る恐る聞くとするも、質問の途中で彼女は笑顔でこう応えた。「骨が折れてなくて良かった。これから気をつけようとは思って居るからといって手を抜くとは思わない。自転車を怖

いとは思わない。」決して

五高写真館



五島の海に見える長い坂道を、みんなで楽しく歩きました。(流)

平成25年4月26日(金)

「ふるさと散策(香珠子コース)」にて

五高祭実行委員 大募集！！

二次募集終了後も、継続して募集しています！「楽しませる」ことが一番「楽しい」ということをみんなで分かち合いましょう。詳しくは担当の先生方まで！(降)

新入生に訊く 新しい日常を劇的に

今年度最初の五高新聞では、入学して二ヶ月が経とうとしている一年生に、今の想いを語ってもらった。一年生は四月の「新入生宿泊研修」で五高生の基礎や心構えを学んできた。研修に行く前と行った後でガラリと表情が変わった人も少なくない。そこで、我々は一年生の数名に入学してからのこと、そして宿泊研修について取材を行った。



インタビューに答える
播磨 武くん (1年5組)

五高に入学して

まず初めに、入学して間もない頃の心境を尋ねてみると、「高校生活は大変そうで不安だった」という意見が大半を占めていた。だが、現在はどうかと尋ねて



五島高校の正門

みると「確かに勉強は大変だが今は新しい生活が楽しい」という活気に満ちた意見が多かった。是非生活に慣れ、心から青春を謳歌できるようになってもらいたい。次に、新入生宿泊研修において、どんなことを学んできたのかを尋ねると、「一つのまとまりで行動することの大切さがわかった」「時間を守ることの大切さを学んだ」「自分たち一人ひとりが積極的に行動すること」と、集団生活の中で欠かせない要素をしっかりと学んできた様子だった。宿泊研修の時だけでなく、これからの学校生活の中でもそういったことはより深く学んでいけることだろう。その学んだことを生

かして、自分の理想に少しでも近づいてもらいたい。目標を持つこと

最後に、これからどういったことを頑張っていきたいか。ということを探してみると、「一生懸命勉強して、テストや授業に最善を尽くしたい」「課題や勉強で大変になるだろうが、しっかりと部活と両立させたい」というように、何かしらの目標を持っていた。やはり、学校生活を充実させていくには、目標を持つことが大切だ。自分の目標を持ち、それに向かって一歩ずつ進んでいくことが、理想を実現させるための最も確実な近道なのである。また、五島高校のペースに馴染めていない人もいるだろう。その人たちはまず、どんなに小さくてもいいので、目標を持ってみてはどうだろうか。その目標を達成しようという精神が平凡な日常にスパイスとして刺激を与えていくのだ。(流)

《五高生たるもの》

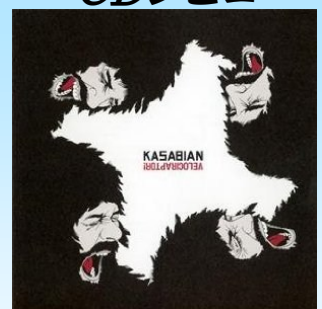


編集後記

新年度になり二か月が経とうとしている。新聞部は少し出遅れたスタートとなったが今年度も読者を唸らせるくらいの記事を作成したいと

考えている。先日の「ふるさと散策」の様も近日、第二号で紹介する予定である。今後の私たち新聞部の活動にご期待下さい。(降)

CDレビュー



「カサビアン」と聞いて皆さんは何を思い浮かべるだろうか。「カサビアン」とはイギリスが誇る人気ロックバンドである。その記念すべき1stアルバムは「Velociraptor!」(ヴェロキラプトル!..恐竜の名称)である。彼らは1999年に大学の同期の四人で結成しデビュー前から大きな注目を集めており今では三作連続全英アルバムチャート初登場一位を獲得するほどの実力派バンドである。

今回、そんな彼らの「カサビアン」にまつている熱い想いを紹介したい。彼らの曲①のようにおだやかな中にも想いをぶつけてくるものや、④のようにスローテンポで穏やかなもの。⑥のようにリズムミカルなものまで様々なタイプがある。私がおすすめたものは①そして⑤。①は彼ら自身、思い入れの強い曲であり、その分伝わってくる熱意や懸命さは特に大きいと感じたからだ。⑤は早めのテンポでクールな曲となっているが、その曲にある静かな力強さは皆さんも心地よく感じることだろう。そして一曲一曲聴いていくごとに更に新たな魅力に気付くことができると思う。一度、聴いてはどうだろうか。(蓮)

- ① Let's Roll Just Like We Used To
- ② Days Are Forgotten
- ③ Goodbye Kiss
- ④ La Fee Verte
- ⑤ Velociraptor!
- ⑥ Acid Turkish Bath (Shelter From The Storm)
- ⑦ I Hear Voices
- ⑧ Re-wired
- ⑨ Man Of Simple Pleasures
- ⑩ Switchblade Smiles
- ⑪ Neon Noon